

We will be like an acorn in a bottle.
Sooner or later we will burst out.

141 To Susan H. Hardy [AC], Kiyoto, Nov. 23rd/75

『新島襄全集6 英文書簡編』

私たちは瓶の中のドングリのようなものです。

遅かれ早かれ、大きく育って瓶を破裂させます。

訳：『現代語で読む新島襄』 1875(明治8)年11月23日/S・H・ハーディへの手紙

この言葉は、同志社創立直前の1875(明治8)年11月23日、スーザン・H・ハーディに書き送られた英文書簡の一節である。この書簡には「she is a person who does handsome.」「美しい行いをする人」として八重さんが紹介され、写真も添えられている。

この言葉の前後には、薩摩藩士らの反発を怖れた京都府庁の圧力の前に、まるで「キリストのために大審問官の前に立たされた」かのように苦闘する新島の姿がある。自前の校舎を持たないが故にキリスト教を教えられない苦悩、圧力を受け続け、悲嘆と絶望の淵にある窮状も書き綴られている。

小さな一粒のドングリが、「他のモノよりも役に立つから価値がある」或いは「大きくなる可能性があるから価値がある」という発想ではない。小さな一粒のドングリが、それ自身かけがえのない存在であり、瓶を破裂させるパワーを見い出す視点である。この小さな一粒のドングリという極小の無限さの中に、キリストの真理を見極めようとする力を重ね合わせ、永遠の楽天主義とも言うべき新島の気概を感じさせられる。時空を超えて生きる私たちに良心教育の真髄を示し、背中をそっと押してくれる言葉でもある。

木村 きむら
良己 よしみ
(中学校・高等学校長)